

石川県海洋漁業科学館中期経営目標

(実施期間 平成27年度～平成29年度)

平成27年3月 策定

1 施設の設置目的

本施設は子供から大人までを対象として、本県の海洋及び水産資源に関する知識を普及し、県内水産業の振興に寄与することを目的に、水産総合センターの附属施設として設置されています。

2 施設の果たすべき役割

本施設は、映像やクイズなどで楽しみながら学べる展示物や、海に由来する素材を利用した工作教室の開催により、海の生き物や漁業の大切さへの理解を深める機会を提供することを役割としています。

3 事業内容

(1) 展示活動

- ・日本海のコーナー： 立体グラフィックにより日本海の構造を解説します。
- ・魚の生物学コーナー： アクリル樹脂封入処理した実物標本や模型等により、魚の成長や年齢、魚のからだや泳ぎ方、泳ぐ早さについて学びます。
- ・漁業コーナー： 映像によって学ぶ石川県の各種漁法や定置網の構造、資源管理ゲーム、パソコン操作で学ぶお魚Q&Aなど、楽しみながら水産業の知識を深めてもらいます。
- ・オーシャンシアター： タイムマシンに乗って未来からやってきた海賊ノット船長と、機関士スコンバーの二人のキャラクターが能登の海を旅する映像により、新鮮な目で見た現代の石川県の海と漁業の様子を解説します。(放映時間：23分間)

(2) 工作教室開催

本物のスルメイカでとっくりを作る「イカとっくり」をはじめ、海藻おしぼで作る「海藻しおり」や貝殻を使った「壁掛け」など、海に由来する素材を使った30分間程度でできる無料の工作教室を開催します。

4 現状と課題

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)の向上について

- ・ 展示内容の充実や工作教室の常時開催、工作メニューの充実などの工夫を行ってきたものの、入館者は年々減少していることから、平成24年度より体験型の企画展を開始しました。これにより入館者数は増加したものの、入館料が無料である中学生以下が増加したことが主な要因であり、高校生以上の入館者増を図る対策が求められています。
- ・ PR活動については、主な施設利用者である奥能登地域の保育園や小学校、商店街等へチラシ配布を行うとともに、能登少年自然の家など利用する金沢市及び周辺市町の小学校などへの施設案内の送付、道の駅でのチラシの設置などに取り組んできましたが、さらに施設の認知度向上に向けてPR活動を拡大する必要があります。

(2)施設運営の効率化

これまで節電・節水等により、施設管理費の節減に努めてきたところですが、こうした取り組みをこれまで以上に強化していく必要があります。

5 中期経営目標

(1)中期経営目標

- ① 入館者を3年間で5%増加させます。
- ② 利用者アンケートによる満足度は、3年間で95%以上に高めます。
- ③ 利用者1人当たりの一般財源投入額を3年間で5%削減します。

(2)測定指標と目標値

測定指標	H25実績値	目標値(H29)
① 入館者数	6,206人	6,520人
② 利用者アンケートによる満足度	92%	95%以上
③ 利用者1人あたりの一般財源投入額	509円	484円

6 目標達成に向けた具体的な取組内容

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取り組み

① 入館料の無料化

これまで、高校生以上は入館料200円(団体利用は160円)を徴収していたが、これを無料化とすることで、高校生以上の入館者の利便性向上を図るとともに、近隣の高校や地域活動グループなどに施設のPRと無料化の周知を行います。

② 館内施設の利用促進

- ・イカとつくり作りやガラス玉編み込みなど、月替わりの工作教室を開催します。
- ・工作教室を開催している研修室やビデオプログラムを上映しているシアターを、高校生の課外活動や地域活動グループの活動に対して貸し出しを行い、設備の有効利用と当館のさらなるPRに取り組みます。

③ 水産総合センターとの連携イベント

水産総合センターの各事業者が持つ生産機能を活用し、ヒラメ稚魚、サケやサザエの生態観察や、アユのつかみ取り、ホンモロコ釣りなど、親子で楽しみながら海や川の魚の生きた知識が学べる体験プログラムを提供します。

④ のとじま水族館等との連携イベント

当館で実施している工作教室の出前講座や、水族館の飼育魚の展示など、関連施設と互いの魅力を相互にPRできるような交流活動に取り組みます。

⑤ 「輪島の海女漁」に関する展示の実施

平成26年6月に県無形民俗文化財に指定された「輪島の海女漁」に関するパネル等の展示を行うなど、本県の水産業の魅力を発信できるような取り組みを進めます。

⑥ 情報発信・PRの強化

奥能登地区のほか、金沢、加賀地区、県外からの来館者増を図るために、ホームページのイベント情報の紹介や学校、道の駅等でのチラシの配布をさらに充実させます。

(2) 施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・光熱費、消耗品費などの節約など管理コストの節減に取り組みます。
- ・冬期などの閑散期や平日について、休館日及び開館時間を試験的に見直すなどして

効率的な施設運営に取り組み、経費の節減を図ります。

参考資料

1 施設の利用状況

(1) 利用指標(利用人数、稼働率などの状況)

指標	H23	H24	H25
利用者数 計	6,433 人	6,655 人	6,206 人
うち有料利用者	2,313 人	2,486 人	2,413 人
工作教室利用者	1,218 人	1,292 人	1,276 人
利用団体数	40 団体	36 団体	16 団体

2 収支の状況

(単位:千円)

		H23 決算	H24 決算	H25 決算	H26 予算
歳出	職員費	4,827	4,834	4,698	4,841
	施設管理費※	3,985	3,725	3,587	3,808
	工作教室開催費	72	69	42	0
	計	8,884	8,628	8,327	8,649
歳入	入館料	449	486	469	450
	国庫補助金	0	0	0	0
	一般財源	8,435	8,142	7,858	8,199
	計	8,884	8,628	8,327	8,649

※ 施設管理費の一部(警備委託料や光熱水費)は、水産総合センターと区分できないため、過去に調べた比率で案分した額としています。

3 利用者1人あたりの一般財源投入額

	H23	H24	H25
一般財源投入額 ①	8,435 千円	8,142 千円	7,858 千円
職員費を除いた額 ①'	3,608 千円	3,308 千円	3,160 千円
利用者数 ②	6,433 人	6,655 人	6,206 人
利用者1人あたりの一般財源投入額 ①÷②	1,311 円	1,223 円	1,266 円
職員費を除いた額 ①' ÷ ②	561 円	497 円	509 円